

NGOトーク
理事が聞く

戦争と平和の資料館 「ピースあいち」に行ってきました

認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 理事 宮原 大輔さん &
(特)名古屋NGOセンター理事 近藤 真由美

建設の経緯

近藤 とても素晴らしい施設ですね。どのような経緯で資料館を建てられたのですか。

宮原 戦争の惨禍を忘れずに資料などを後世に残して平和を志すような資料館を作ろうとする市民運動を、1993年に始めました。元名古屋大学総長の飯島宗一さんに呼びかけ人になっていただいて署名活動などを行い、愛知県や名古屋市に、戦争と平和に関する資料館を建ててほしいという請願をしました。そして県議会や名古屋市議会で採択されたため「戦争に関する資料館検討委員会」が設置されました。これは今でも継続しており毎年予算もついています。

近藤 まだ継続しているのですね。

宮原 その委員会でのどのような資料館が必要かの議論がされました。これは今でも愛知県のHPで報告書を見ることができます。かなり充実したもので、こういうものが

できれば素晴らしいなと私たちも思っていたのです。ところが90年代になって景気が悪くなり、財政難になったため資料館設置も凍結状態にされました。

そのため、私たちだけであちこちから資料をお借りして、こういう資料館を作りたいというモデル展を2005年に行いました。そしてその新聞記事を読んだある高齢の女性から、「私の土地と資金を寄付するので資料館を建ててくれませんか」と申し出ていただいたのです。それを活用して「ピースあいち」を建設することができました。一方で行政には引き続き公的な資料館をその責務として設立しなければならないという主張は残しており、今でも私たちの団体名は「平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」のままです。

私たちは行政に建てくれという活動はしていましたが、まさか自分たちが設立するとは思っていなかったわけですから、各地の平和資料館を見学するなどして、どういう展示内容にするかから議論して、2年後の2007年5月にオープンしました。

わかりやすい展示

宮原 戦争資料館とはいえ明るい感じが欲しくて、建物は白色を基調としています。展示の柱は4つあります。

1つめは名古屋をはじめとした愛知県下の空襲です。三菱重工などの軍需工場以外にも市民が多くの被害を受けました。地図や証言なども用いて空襲の非人間性を訴えています。2つめが15年戦争の全体像です。どのように戦争への道を突き進んでいったかを展示しています。3つめが戦時下の暮らしです。慰問袋や千人針、食器、電気器具など市民の方から提供を受けたものを展示して、人々がどのように暮らしていたかを伝えています。4つ目が現代の戦争と平和です。戦後の日本の平和の取り組みなどを展示しました。

近藤 行政に頼らずに自分たちで資料館を設けたことに驚きました。私はそれで良かったと思います。歴史の真実を何の手も加えずに語ることが重要であり、行政が主



ピースあいち



第2展示 戦争の全体像



第4展示 現代の戦争と平和



みやほら だいすけ
宮原 大輔さん

地下鉄一社駅から北に歩いて15分。住宅地の中に「戦争と平和の資料館ピースあいち」があります。ピースあいちを運営している「NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」の宮原さんに、名古屋NGOセンターの近藤理事がお話を伺いました。



こんどう まゆみ
近藤 眞由美

体になるといろいろカットされるかもしれませんが。

宮原 展示したいものを展示できるという自由さは何物にも代えがたいものがありますね。

また、土地や資金の寄付をいただいた2005年は戦後60年が過ぎて、直接戦争を経験された方が高齢化して亡くなられたり、当時の遺物がどんどん失われる頃でした。あの時に自分たちで資料館を作ったおかげで、なんとか次の世代に戦争を伝えることができました。オープンから6~7年経ちますが、その間多くの戦争体験をされた方が語り部として子どもたちに語り継いでいます。

市民が支える資料館

近藤 ボランティアさんが多いのにも驚きました。

宮原 職員は1名のみで、他は90名ほどのボランティアさんで運営しています。受付や各階の展示室で活動していただいています。月1~2回活動される方が多いですね。優秀な方たちが、例えば定年退職を機に自分の人生で培ってきたいろいろなものをここに持ち込んで下さいます。これは他地域の平和資料館には見られない大きな特徴です。ピースあいちの年間運営経費は900万円程度ですが、これもボランティアさんのおかげです。

近藤 すべて市民の手作りなのです。

宮原 私たちはピースあいちの運営以外にもさまざまな活動をしています。広報を編集発行し、戦争遺跡を調査するとか、市

民の方から寄贈を受けた戦争当時の遺物などの保管・整理など、さまざまなプロジェクトチームを組んで活動しています。戦争体験者が小学校に向いて直接子どもたちに体験談を話す「語り手の会」の取り組みやボランティアどうしの交流をするチームもあります。

近藤 特別展はどのように企画しているのですか。

宮原 イベント委員会で検討しています。毎年夏休みの時期に大型の特別展を開催しています。今年は、はだしのゲン原画展、去年は日本画家丸木位里・俊(まるきいり・とし)の「原爆の図」でした。はだしのゲン原画展は2,500人の方が来場していただきました。自分たちで美術館や博物館などに行って話をしながら、何を借りられるのかとか展示はどうやったらいいとかを決めるスタイルです。その過程が勉強にもなりますね。

近藤 外国語のパンフレットもありますね。

宮原 外国からのお客様は、中国などでの加害の展示に心を留めて見てくださいますね。ボランティアさんの協力で、中国語やハングル、英語のパンフレットも作りました。外国の方にも来ていただきたいと思っています。

今後の課題

近藤 今後はどのような方向性で進めていきますか。

宮原 まだまだピースあいち自体よく知られていないと思います。多くの市民の方々に知ってもらい、来館していただきたいですね。また正会員と賛助会員併せて約900人の会員がいますが、会員の拡大もめざしたいと思っています。

近藤 これだけの施設を市民が運営して、多くの会員が支えているのを見ると勇気が出てきますね。

宮原 こういう平和資料館がやっていけるかどうかは社会のバロメーターといえます。もう少し悪くなるとやっていけなくなります。

近藤 そのとおりですね。この数年、戦争ができる国へとなくなっていく雲行きですね。「戦争というのはこういうものだ」ということを、より多くの方に見て頂かないと、今の動きを止めることはできないと思います。戦争のことを伝えてこなかったのも社会的な欠陥ですね。どうもありがとうございました。

戦争と平和の資料館「ピースあいち」

〒465-0091名古屋市中東区よもぎ台2-820 TEL/FAX: 052-602-4222

地下鉄 東山線一社駅下車徒歩15分

開館時間: 午前11時から午後4時まで。休館日: 日・月(祝日は開館します)

入館料: 300円(特別展などで変動する場合があります)

ホームページ: <http://www.peace-aichi.com/>